

健診検査センターニュース

No.547号

運営委員会より

12月17日（木）平成27年度第9回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診11月の実施件数は、下記のとおりでした。

	11月受診数（前年比）	累計（前年比）	函館市国保受診率 11月現在 15.60% / 目標 30.0%
函館市国保	1,290人（91人 107.6%）	8,493人（112人 101.3%）	
後期高齢者	567人（129人 129.5%）	4,211人（377人 109.8%）	
その他	371人（170人 184.6%）	1,681人（80人 105.0%）	
合計	2,228人（390人 121.2%）	14,385人（569人 104.1%）	

実施機関：98施設／登録機関 105

○ 11月の受診者数は、2,228人と前年に比べ390人の増加となりました。

2. 27年11月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	11月（前年同月比）	27年度累計（前年比）
一般検査収入	104.2 %	103.4 %
健診収入	95.7 %	104.6 %
合計	100.2 %	103.9 %

3. その他

定年退職者1名についての報告がありました。

《 ちょっと一言 》

医師会健診検査センター運営委員広報担当の小葉松です。年の瀬も押し迫り、忘年会のピークも過ぎたかな、という時期ですが、皆様飲み過ぎ食べ過ぎで体調を崩していませんか？

お酒は奥の深い味わいで食事を美味しくしてくれる百薬の長ですが、残念ながら、お酒で病気になったり、果ては死んでしまう方が後を絶たないのも事実です。先週も京都の19歳の大学生が急性アルコール中毒で死亡したニュースを見かけました。私は学校でアルコールの害についての出前授業もやっておりますが、教科書通りに害の話ばかりをすると、子どもたちは「悪いことがあるのに、なんで大人はお酒を飲むの？」と疑問を持つのが当然です。

本来、お酒とは、ヒトが農耕によって得た作物の残り物から作ったもので、特別な時に飲む貴重な飲み物だったはずです。現在でも、食料が満足に手に入らない人々には、お酒を飲む余裕はないと思います。お酒が貴重品だった時代には、皆でお酒を分け合って舐めるように頂いたのでしょうから、お酒に弱い人が意識をなくしたりすることも稀だったはずです。イッキ飲みをして若者が死んでしまうような事故は、日本が豊かになり、安価に大量のアルコール飲料が供給され、イッキ飲みに精神的、経済的な抵抗がなくなったのが一番の原因だと思います。慢性アルコール中毒だって、お酒が高嶺の花なら庶民がアルコールを依存するほど飲むことは不可能です。

本来お酒とは、人間の知恵の産物として生活を豊かにする文化のひとつなのでしょうが、学校の授業でその害を強調しなくてはならなくなったのは、飲み方に問題があるからです。お酒好きの一医師としては、日本の文化的風土には神事等でお酒が深く関わってきたことも織り交ぜながら、子どもたちが将来、お酒で健康を害することがないように、との想いを込めて出前授業に取り組んでおります。出前授業に興味のある方は職種を問わず是非ご一報下さい。慢性的な講師不足です。

皆様も節度ある飲み方で、どうぞよいお年をお迎えください。

(文責 小葉松洋子)

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp